

9月議会定例会と一般質問

9月5日からH30(2018)年度9月議会定例会が始まりました。今議会は決算委員会、常任委員会、決算特別委員会も開かれました。

私は一般質問をさせて頂きましたが、順番は4番目。初日に私が質問するのは久しぶりのこと。一つ目は、障がい者法定雇用率の水増し問題。

鎌倉市では水増しは無かったのか？

中央省庁が雇用する障がい者の数を水増ししていた問題。地方自治体にも波及して、不適正な積算をしていた実態が明らかになっています。とんでもないことです。

「鎌倉市では水増しはなかった」と市長の定例記者会見での報告もありましたが、障がい者雇用についてはこれまでも多くの質問をしてきた立場から再度確認の質問をしています。

障がい者2,000人雇用を目指す市として、働き方、働く場、働く機会を増やす提案もしました。

終活、エンディングノートの活用とその次？

この8月から市の高齢者いきいき課では、エンディングノートの配布を始めました。このノートを実際に書き込みどのように活かすのか、幾つかの提案を行いました。

今、身元が分かっている、死を看取られていても、遺骨の引き取り手がないケースが急増していると言われています。

来年度、市が始める「エンディング・サポート事業」もありますが、さらに「終活情報登録伝達事業」の取り組みを提案。高齢者に限ることなく誰もが「終活」を考える場合、行政からのアプローチが必要になるという提案です。

ブログ「いやさか通信」から

旧県立近代美術館の今後



65年の歴史をもつ鶴岡八幡宮境内の同美術館。来春「鎌倉文化館・史の花」として開館予定。歴史と今後について鶴岡八幡宮宮司吉田様のお話がありました(9/2)。

十二所神社のお祭り



今年も「篠笛演奏」で参加。お祭り自体も素晴らしいのですが、毎年の楽しみは、婦人部の方達の心を込めたお煮しめなど。本当においしい(9/2)。

東京のセミナーで講演



「地方議員のための政策力向上セミナーin東京」が開催され、実際に取り組んだ議員として同僚3人と講演。講演することで見直すべき事も見えてきます(8/27)。

東部地区合同盆踊り大会



7町内会合同の盆踊りが8/10・11に開催。準備から翌日の片付けまで、大変な労力ですが、助けあう、学びあう、合同開催こそその協力が有意義でした(8/12)。

由比ヶ浜海岸にクジラが



写真は友人が撮ったもの。シロナガスクジラの子どもで、打ち上げられたのは国内で初めてだそうです。体長約10m、それでも成体の3分の1(8/6)。

生ゴミ減容化処理施設視察



猛暑の中、処理施設の先進地埼玉県2施設を視察。家庭ゴミは臭わず、産業廃棄物は臭う、という印象を受け、鎌倉の目指すべき道を考えてながら帰路に(7/31)。

前川あやこのホームページからブログ「いやさか通信」をご覧ください。
<http://www.maekawa-ayako.net>



山崎浄化センター広場で今年も「総合防災訓練」が開催。ペットと同伴での避難訓練、土嚢製作訓練、道路啓開・土砂車両除去訓練、電気・ガス・水道の応急復旧訓練など様々な訓練を見せていただきました。一昨年の熊本地震、今年6月の大阪地震、広島土砂災害、そして今回の北海道胆振東部地震。災害は忘れた頃ではなく、「常に備えよ」ということ。東部地区では避難所のマニュアル作りも始まります(2018,8,23)。



前川あやこ

無所属 鎌倉市議会議員

2005年初当選 4期目 鎌倉みらい代表

議会運営委員会委員長

教育・子どもみらい常任委員

政策法務研究会メンバー

レポート

No.58

2018,10発行

2018年9月議会からのご報告

- 1 9月議会定例会と一般質問
- 2 鎌倉市役所の障がい者雇用
- 3 エンディングノートの配布と「終活」

鎌倉市役所の障がい者雇用

◆鎌倉市役所は法定雇用率を満たしている

この度の問題を受け、9月3日神奈川県労働局が来庁、本市の現状や把握・確認方法の説明を求められたが、問題の指摘はなく、本市の取扱いは妥当なものと思われれます。

現在の障がい者雇用者数及び雇用率は33.5人(2.64%)で、法定雇用率2.5%を満たしています。障がい情報の把握は、全職員一斉の呼びかけで「障がい情報の変更」等の把握を行っているが、問題ないとの回答を得ており、今回の一斉照会も6月に行っており、今回の問題発生を受けて行ったものではありません。

障がいを持つ職員のうち、6月1日時点での新規採用者は、33.5人のうち19.5人、比率は58.2%です。



◆市の取り組みと今後の課題

法定雇用率を達成することは重要ですが、それだけでなく、いかに働く場所を確保していくか、また一般企業へ雇用の幅を広げていくことが大切です。能力と適性に応じた仕事に就き、自立した生活ができる社会を目指さなければなりません。

障がい者雇用2,000人を目指す市では、ワークステーションを設け努力しているところです。この8

旧図書館、耐震改修工事を一時中止

御成小学校に隣接する「旧町立図書館」。耐震強度不足が判明して市は解体を決定したが、歴史的、文化的価値が高いとして、保存を求める声があり、改修して(仮称)おなり子どもの家として利用することになった。しかし外壁等の撤去が進むと、想定以上の腐朽が分かった。このため工事を一時中止して検討中。当初費用約2億5千万円だが、さらに8千万円程度の増額となる予定で、9月議会に図られる。

月には鎌倉テレワークライフスタイル研究会の準備会が開催されたそうです。職場に出勤しなくても働けるテレワークは、障がいがある方の働く場を広げます。現在の市役所の仕事に合わせて障がい者を雇用するという考え方ではなく、障がいを持つ方に合わせた働き方を探っていかなければなりません。

エンディングノートの配布と終活

◆人生を振り返り、その先を考える

駅に向かうバスの中で、知人の女性から「実際に書いて、その先をどうすれば良いのか」という質問を受けました。

このノートの目的は、記載することで人生を振り返り、もしもの時のために自分の意志を伝えること。65才以上の方なら、高齢者いきいき課で配布しています。しかし書いただけで終わってしまわないよう、書くための基本情報はもちろんのこと、それぞれのエンディングについて意見交換をする場や、その活用方法を紹介する講座が必要で、今後開催される予定です。

同時にその内容は市役所の複数の課と関連があり、職員向けの研修も必要です。エンディングノートは終

裸の付き合い、銭湯復活への取り組み

鎌倉市の公衆浴場組合が発足した1959(S34)年当時、20軒が加盟していたが、今では市内の銭湯は5軒のみ。若い人に銭湯の魅力はなかなか分かってもらえないようだ。もっと親んでもらおうと様々な手が打たれている。みらいふる鎌倉の協力を得て秋に開催する「鎌倉銭湯寄席」。また市と協働で実施する「デイ銭湯」、入浴と体操、健康チェックを銭湯で実施するもの。こうしたなか追い風も吹く。レトロな魅力にひかれる若者、日本情緒を体験しようと足を運ぶ外国人観光客、ハイキングの後に汗を流す人など。もっと盛り上げたい裸の付き合いだ。



活の入口にすぎません。市民全体に理解を広げていくよう要望しました。

◆エンディングプラン・サポート事業

鎌倉市の65才以上の単身世帯数はS30年で約9,500。

S45年には1万軒を超え、5軒に1軒が単身世帯になると見込まれています。また既に引き取り手のない遺骨が毎年複数柱あります。

市の「高齢者保険福祉計画」にエンディングプラン・サポート事業があります。これは終活課題の解決に向けた支援を行うもの(65才以上の身よりのない一人暮らしで、一定の所得以下の方が対象)。

このサポートが効果的に行われるためには、生前から情報が市に上がっていなければなりません。民生委員の活動と重なる部分もありますが、ご本人がご自身の終活情報を登録しておくことが重要で、「終活情報登録伝達事業」の立ち上げをお願いするところです。これは「長寿社会のまちづくり」にも繋がる課題です。



「子ども大学かまくら」の授業を聴いて

子ども大学かまくらは、学校とは一味違った学びの場を、小学校の4~6年生に提供するもの。2012年にスタートした市民立の大学です。学長は養老孟司・東京大学名誉教授。2002年ドイツで始まりましたが、子ども達のなぜ、どうして? に応えるもの。今年の第3回定例授業が学習センターで開講。講師は、葉山の神奈川県立近代美術館の水沢勉館長。1週間前に鎌倉の近代美術館の話をもとに、鶴岡八幡宮宮司吉田様から聞いたばかりだった。作品はスマホで撮らないで、スケッチしたりメモを取ると忘れないなど、大人が聴いても感心したり楽しめる話で、久しぶりに葉山の美術館を訪問したくなった。

